

校友会会報

No. 24



酪農学園大学同窓会校友会

2018年1月1日 発行

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町 582 番地

TEL (011) 386-1196

FAX (011) 386-5987

E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp

HP <http://kouyukai.rakuno.org>

発行 酪農学園大学同窓会校友会

印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

新年を迎えて

酪農学園大学同窓会校友会 会長 小山 久一

はじめに

同窓生の皆様におかれましてはお健やかな新年をお迎えることとお喜び申し上げます。日頃から酪農学園大学同窓会校友会（以下校友会）活動についてご理解とご支援を賜りお礼を申し上げます。

校友会の動き

本年度の校友会の事業は新入生への革製パスケースの贈呈に始まり、白樺祭への助成、学生応援企画メニュー、ホームカミングデー等ほぼ計画通り進み、卒業式対応を残すのみとなりました。特にホームカミングデーは昼食会と記念礼拝・講演会ともに例年になく参加者が多く活気にあふれておりました。また、復活させました卒後10・20・30・40・50周年記念同期会も盛会でありました。中には「次の同期会まで10年待てない」とこれをきっかけとして独自に開くことにしたいとの声もありました。校友会としては、このような例は大歓迎ですので皆様の同期会への企画・参加をお願いする次第であります。

酪農学園同窓会との連携

ご存じの方は多いと思いますが、校友会活動は主に大学内で行われ、独自の全国の活動はなく酪農学園同窓会に委託する方式をとっております。私は酪農学園同窓会の会長も務めておりますので、全国の支部活動にも出席しております。そこで目にするのは、酪農学園の出身学校（高校、短大、大学など）に関係なく一体となった活動が行われていることです。確かに参加者が少ない、特定学科に偏るなど支部役員の手配するところがありますが、他大学の同窓会が羨むほどの支部が全国に張り巡らされ、全体として活発な活動が継続されていることは同窓会として誇りとするところであります。これらのことは支部役員の地道な努力によるものであり、有難く敬意を表するところであります。

「親睦」には力がある

校友会と酪農学園同窓会の目的の第一は同窓生相互の「親睦」であります。会長になってからこの言葉ほど頭の中を駆け巡った言葉はありません。この「親睦」は同窓生同士の親交を深めることを目的としています。しかし全国の同窓会に参加して、単にそれだけではないことに気づきました。同窓生同士の話には種々の「力」があることに気づいたのです。学生時代の話を活き活きとしているのを見ると「過去の力」を感じます。過去の話は単に思い出話であって、そんな話を

してもと思われるかもしれませんが、学生時代を思い返すことによって忘れていた自分を思い出し、現在の自分を微妙に修正し、部分リセットしているのを感じるのです。また仕事の話、病気の話等からは人生を前向きにする「共有する力」を感じます。ある支部同窓会で、前立腺肥大で手術をした知人の話を交えながら同窓会の力について挨拶をしたとき、支部長さんが「私も同じです。前立腺肥大は進行が遅いので」と書道始めたことや人生を楽しみたいとの話がありました。それらを何のこだわりもなく話していたのです。私は驚きとともに多少狼狽しましたが、参加者が酪農学園で学生生活を送った仲間という共感がそうさせたのかもしれない。改めて支部長さんの書いた横断幕を見ると細身ながらも強さを感じることができ、かけがえのない人に出会えたことに感謝でありました。



このように同窓会に参加することによって得られるものは何か特別なものではなく、実は参加者がお互いに、ある時は「背中を押す力」となり、ある時は「背中を押される力」を感じることであります。これらはハッキリと実感できるものではないのですが、思わず「来てよかった」と言いたくなるものだと思います。同窓会には様々な経験を持った人が集まっており、喜び・悩み・苦しみの経験を積み重ね困難を乗り越えた人が大勢います。同窓会はそれらの人の集団であり「同窓会力」となって自然とお互いに助け合う精神が形成されています。支部総会や懇親会に参加することはこの力に接することになるので人生を真正面から向き合うことができると思います。

おわりに

校友会は、ほぼ一本化されていますが、未だに進行中であり、酪農学園同窓会との連携を強めながら、先に示した「背中を押す力」のように同窓会の根底に備わった力を十分に発揮できるようにする必要があります。同窓生の皆様には今一度原点の「親睦」を見直していただき、校友会のより一層の活性化につながる同窓会力を磨いていただきたいと思います。

新しい年が平穏で実り多い年となりますよう祈念いたしております。

■循環農学類「学類の近況」

循環農学類長 中辻 浩喜

同窓生の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。また、日頃からの循環農学類の運営等に対するご支援に深く感謝申し上げます。

さて循環農学類は、2011年4月、従来の学部・学科制から2学群5学類制に移行するにあたり酪農学科と農業経済学科を統合する形で発足し本年度で7年目を迎え、2017年3月に3期生が社会へと巣立って行きました。

以下、学類の近況についてご報告します。学生の動きとしては、2017年3月に3期生220名を送り出したのも束の間、4月には新入生275名を迎え入れ、2017年9月1日現在で、学類全体として1,124名の学生が在籍しております。

このように多くの学生を現在46名の学類所属教員が中心となって連日の学生指導を行っております。そんな中での教員の異動についてご紹介します。

2017年3月をもって荒木和秋教授（有機農業・酪農経営学）、佐々木均教授（応用昆虫学）、野英二教授（フィードリングシステム）が長きにわたる勤務を無事終えられ定年退職を迎えられました。また、岡田正裕教授（農業科教育）、高橋茂教授（家畜改良学）、三木直倫教授（有



毎年恒例の学類長杯ソフトボール大会

機農学）、岩本正姫准教授（健康運動生理学）も嘱託の任期を終えられ退職されました。各先生の大学・短大、学科・学類でのこれまでの教育研究および運営に対する多大なご貢献にこの場をお借りし感謝申し上げます。

一方で、4月には糸山健介講師（協同組合学）、西寒水将助教（家畜生産改良学）、西田丈夫教授（嘱託・農業科教育）、柴田啓介助教（嘱託・健康スポーツ科学）の4名の新しい教員を迎え、循環農学類教育の一層の充実にご尽力いただいております。

これまでご紹介した通り、循環農学類は大変な大所帯であり、月に1度の学類会議でも全教員が一堂に会することが難しいのが現状です。ましてや学生を含めるとなると…ですが、そこは循環農学類、学生と教員が会するイベントをちゃんと設定しています。学類の公式行事である学類長杯研究室対抗スポーツ大会（ソフトボール：7月、バレーボール：12月）です。学生は研究室所属の3、4年生が主体ですが、企画から当日の運営まで主体的に行ってくれます。何せチーム数が多いので始まりは朝早いのですが（6時集合）、いつも朝寝坊の学生もこの時ばかりは多数揃います。そんな中、最近是我々教員も負けまいとチームを結成して参加しています。今年は若手教員からの声掛けもあり、ソフトボール大会で初の教員チームを結成し、学生チームとの“エキシビジョンゲーム”が企画されました。しかし、試合直前の堂地学群長によるシートノックを開始した途端に突然の大雨となり、止む無く中止となってしまいました。残念至極！来年こそは…と今から（学類長が一番）意気込んでおります。

学生の教育において、また組織運営においてもコミュニケーションによる相互理解が非常に大切です。教員同士のみならず、学生も含めた相互理解が重要です。そして、循環農学類のような大所帯で教育研究分野も多岐にわたる組織ほどその重要度は増します。幸い、このよう

な考えに理解のある学類メンバーが揃っており、学類長として心強く思っております。

今後も循環農学類の教育研究の充実に対し、教員一体となって努めていく所存です。同窓生の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



2017年3月学類3期生卒業記念写真

■食と健康学類「学類の近況」

食と健康学類長 竹田 保之

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、2017年3月には食と健康学類3期生173名（うち管理栄養士コース42名）が社会へと巣立ちました。また、3月末に行われた管理栄養士国家試験においては卒業生42名中41名が合格いたしました。昨年度も道内の管理栄養士養成施設校の中ではトップの合格率を達成することができました。

一方、本年度は学類全体で187名（うち管理栄養士コース46名）の入学者があり、2017年5月1日時点で総勢744名（うち管理栄養士コース176名）の学生が在籍しております。次に教員の異動をご報告いたします。

2017年3月をもって、石下真人先生（肉製品製造学研究室）が定年でご退職になりました。8月にはご退職の記念パーティーも盛大に催されました（11ページ参照）。尚、石下先生にはお忙しいところ、本年度も講義をお引き受けいただきました。以前と変わらぬ笑顔と情熱で学類の教育にご協力いただいております。2017年4月より長谷川靖洋助教（応用生化学研究室）と長村知幸講師（マーケティング研究室）のお二人が新たに専任教員として勤務されております。長谷川先生は本学の卒業生（食品科学科14期）で、ご出身の研究室で岩崎智仁先生とともに教育、研究ならびに学生の指導に励まれております。また、長村先生には、加藤敏文先生がご退職後、しばらく担当教員が不在であったマーケティング研究室をご担当いただくことになりました。ゼミ生はまだ3年生ですが、精力的に活動されております。お二人ともこれからの食と健康学類の発展に大きな力となってくれるものと思っております。

さて、この1年も管理栄養士コースの学生がさまざまなレシピコンテストで入賞しております（表）。また、食生活改善功労者として石井智美先生が北海道社会貢献賞を受賞いたしました。まことにうれしい限りです。

2016年ご紹介したワインプロジェクトの一端として、2017年3月には多くの人のご協力

表 2017年レシピコンテスト入賞学生

大会名	賞と受賞者
第4回全国病院レシピコンテスト	低カロリースイーツ部門 最優秀グランプリ ：三浦純平、池田浩輝、渡部明賢（3名チーム） 金賞：永山陽子、土田菜生（2名チーム） 銀賞：岡崎茉衣
北の災害食レシピコンテスト	アレルギー対応食部門 北海道知事賞（最優秀賞） ：永山陽子、池田浩輝、渡部明賢（3名チーム）

の下、記念のロゼワインを製造することができました（写真1）。北海道ワイン株式会社とは2017年9月に連携協定を締結し、さらなる活動の充実が図られます（写真2）。また、同じく9月にはコープさっぽろとも連携協定を結び、新商品の開発や食育などの分野で協力して活動することとなりました。

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類の同窓生の皆様におかれましてはご健康に留意され、ますますご活躍されることをご祈念申し上げます。近年の少子化は食と健康学類にも確実に影響を与えてきております。教職員一同、学類の発展になお一層努力してまいります。今後とも食と健康学類の教育、研究に格段のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



写真1 酪農学園大学ワイン



写真2 北海道ワイン株式会社との連携協定締結式

■環境共生学類「学類の近況」

環境共生学類長 佐藤 喜和

環境システム学部ならびに環境共生学類卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より学類の運営等にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

2017年4月より、前任の吉田剛司先生に代わって学類長を務めることとなりました。よろしく願いいたします。また吉中厚裕准教授と上原裕世助教が着任されました。吉中先生は、国際理解学研究室を担当されます。環境省、外務省、国連の生物多様性条約事務局と30年間の国際／国家公務員を務められました。早速ゼミ生の指導や多くの講義を担当頂いています。上原先生は、実践野生動物学研究室を担当されています。本学環境システム学部生命環境学科卒業・大学院酪農学研究科修士課程・博士課程を修了し、2016年3月に博士（農学）の学位を取得されました。主に学内外の実習科目を担当頂いています。お二人の今後の活躍にご期待ください。

2017年6月には環境GIS研究室が、北海道による本年度環境保全活動功労者表彰を受けました。江別市内の小学校において、空中



写真1



写真2

写真を活用した環境教育を行うなど、環境保全の推進に貢献してきたことが高く評価されました（写真1、大学HPより）。

2017年7月には環境共生学類野生動物学コースのカリキュラムが、（一社）鳥獣管理技術協会（宇都宮市）で実施している鳥獣管理士の資格認定試験に必要な要件を満たしたプログラムとして、全国で最初に認定されました。鳥獣管理士とは、全国的な課題となっている野生鳥獣と人間の^{あつれき}軋轢に関する地域課題を担う、鳥獣管理技術者を認定する資格制度です。指定科目を履修することで、鳥獣管理士資格認定試験の受験資格が得られます。2017年12月には最初の試験が行われました。次回の近況報告では最初の合格者を報告したいと思います。詳しく

い情報は、ぜひ私までお問い合わせください（写真2）。

2018年3月には、長年にわたり環境システム学部ならびに環境共生学類の学生教育と研究にご尽力いただきました生物多様性保全研究室の赤坂猛先生、地域環境保全学研究室の宮木雅美先生、生命環境物理学研究室の矢吹哲夫先生、発生物学研究室の山舗直子先生が定年でご退職となられます。2018年2月2日には4名の先生方による退職記念講演会の開催を予定しています。ご縁の皆様、ぜひご参加を予定してください。

同窓生の皆様のご健康とますますのご活躍を祈念いたしております。今後とも環境共生学類の教育・研究にご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

■獣医学類「学類の近況」

獣医学類長 山下 和人

同窓生の皆様には、日頃より獣医学類の運営ならびに教育研究活動に関してご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

まず、この1年間の獣医学類の教員の異動をご報告致します。2017年3月には、獣医生化学ユニット横田博教授、獣医病理学ユニット谷山弘行教授（理事長就任）、獣医細菌学ユニット菊池直哉教授、および食品衛生学ユニット田村豊教授（動物薬教育研究センター長就任）の4名のベテラン教授が定年退職されました。各先生には、長年に渡り本学獣医学科および獣医学類の教育研究そして運営の中心として多大なる貢献を頂きました。我々後輩教員一同、心から感謝申し上げますとともに、各先生のこれまでのご尽力を継承して行かねばと思う次第です。加えて、2017年9月には獣医放射線生物学ユニットの五十嵐寛高助教が麻布大学獣医学部へ転出されました。五十嵐先生には、短い間でしたが、獣医放射線学ならびに伴侶動物内科の教育研究に尽力して頂きました（新天地での大いなるご活躍を期待しています）。

さて、新任として獣医細菌学ユニットに内田郁夫先生（教授）、獣医解剖学ユニットに加藤敏英先生（教授、本学14期卒）、動物生殖学ユニットに中田健先生（教授、前ハードヘルス学ユニット教授）、ハードヘルス学ユニットに福森理加先生（講師）、および獣医生化学ユニットに藤木純平先生（助教、本学47期卒）、獣医病理学ユニットに佐野悠人先生（助教、本学大学院修了）が着任され、教育研究と忙しい日々を精力的に過ごされています。また、嘱託助手として、伴侶動物医療学分野に足立真実先生（本学40期卒）および丹羽昭博先生（本学42期卒）が着任されました。2019年度までに嘱託助手は合計10名採用予定であり、斉一教育での参加型臨床実習の本格実施に向けて着々と準備を進めています。

次に、昨年度より始まった獣医学類の新しい取り組みについて二つご紹介致します。一つ目は獣医学共用試験と斉一教育での参加型臨床実習です。昨年、及川前学類長（現獣医学群長）よりご紹介がありましたように、2016年度より獣医学共用試験が開始され、本学では2017年2月に4年次学生が受験しました。残念ながら全員合格とはいきませんでした。ほとんどの学生が合格し、現在「Student Doctor」として、昨年度改修した本学動物医療センターでの生産動物または伴侶動物の診療、あるいは2012年6月に締結した遠軽町・湧別町・オホーツク農業共済組合・えんゆう農業協同組合・湧別町農業協同組合と本学の連携協定に基づくオホーツク臨床実習に参加し、真の実学教育を通して獣医師としての腕を磨いています。


二つ目は、獣医学教育の国際化対応です。本学獣医学群では、獣医学科開設100周年（2064年）を迎える時にさらに発展した獣医学群を社会に示すことができるよう、2015年3月に「酪農学園大学獣医学群改革基本方針2014」を設定し、本学獣医学群の20年後の理想像と

して「社会貢献できる獣医学および動物看護学の教育研究」「先進的で総合的な獣医学および動物看護学の教育研究」「国際化に対応した獣医学および動物看護学の教育研究」を主眼に教育研究体制を整備することとしました。現在、この改革基本方針のもと、国際化の取り組みを、本学獣医学類と海外の獣医系大学との単位互換制度の確立による教員と学生の国際化、および国際的認証評価を基にした本学獣医学類の獣医学教育体制の国際化という二本柱で進めています。

本学では、北海道大学の主導のもと東京大学とともに世界展開力強化事業（2013－2017年度）を進めてきました。本事業では、この4年間に毎年約10名（合計約40名）の本学獣医学類5年次学生がタイのカセサート大学獣医学部で約4カ月（9～12月）にわたり臨床実習を受講し、単位互換制度の基で単位を取得しました。もちろん、本学でもカセサート大学獣医学部から毎年20名の学生を受入れ、臨床実習や衛生実習を実施しました。本事業は本年度が最終年度ですが、本学獣医学類では、カセサート大学獣医学部との単位互換制度を今後も継続することを決定し、次年度以降の実施に向けて準備を進めています。

現在、本学類では、2018年度にわが国の大学基準協会による獣医学教育の第三者評価を受けるべく準備を進めています。さらに、本学類で実施されている獣医学教育が国際水準にあるのか、国際水準にないとすれば何が足りないのかを明確にすべく、ヨーロッパの獣医学教育認証評価（EAEVE）を受けることを決定しました。これらの第三者評価を受け、獣医学教育を改善することによって、本学獣医学類に入学してくる学生に、国際レベルの良質な獣医学教育を提供できるようになります。海外の獣医系大学との単位互換制度と獣医学教育における国際的認証評価を基にした改革によって、本学類は国際水準に合致した獣医学教育を通して現場に役立つ獣医師を同窓生の皆様のお手元に送り届けることができると確信しております。

最後になりますが、同窓生の皆様のご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げます。また、今後とも皆様からの変わらないご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

 **vet ESO 獣医学教育支援機構**

Student Doctor 認定証

酪農学園大学

19640127

酪農 太郎

■獣医保健看護学類「7年目を迎えて」

獣医保健看護学類長 北澤多喜雄

皆さんこんにちは！校友会便りをお届けします。獣医保健看護学類の学類長に再度なりました北澤多喜雄です。よろしくお願います。獣医保健看護学類は教育システムを変更した2011年4月に開設されましたので今年で7年目を迎えます。人間でいえばやっと小学校に入ったという年になりました。こここのところ学類の構成員に大きな変化はなく私（北澤）の他には、内田教授、嶋本教授、佐野准教授、椿下准教授、郡山准教授、宮庄講師、八百坂講師となっています。また17年4月からは獣医学類から浅川教授に加わってもらいました。黒澤先生にも引き続き嘱託教員として学類教育に協力を頂いています。

2017年度の入学試験ではほぼ例年通りの志願者があり、65名が7期生として入学しました。動物看護師資格は専門学校卒でも取得できますし、関東圏にも多くの大学がある中で入試課、学類の皆さんの協力もあり何とか志願者、入学生を確保した形になります。一方、出口の方では3月に3期生を輩出しました。3期生（56名）の就職先は民間小動物病院の動物看護師が40%以上であり、次いで民間企業（動物関連、非動物関連）が30%程度、他に生産動物関連（農協、人工授精師等）、進学（含む大学院）、公務員等がありました。また、本学の動物医療センターの看護師として2名（1名は生産動物医療部門）が採用されています。加えて大学院獣医学研究科修士課程においても1期生4名が修了しました。修士論文の指導や審査、発表会は学類教員にとっても初めての経験となり良い勉強の機会になりました。

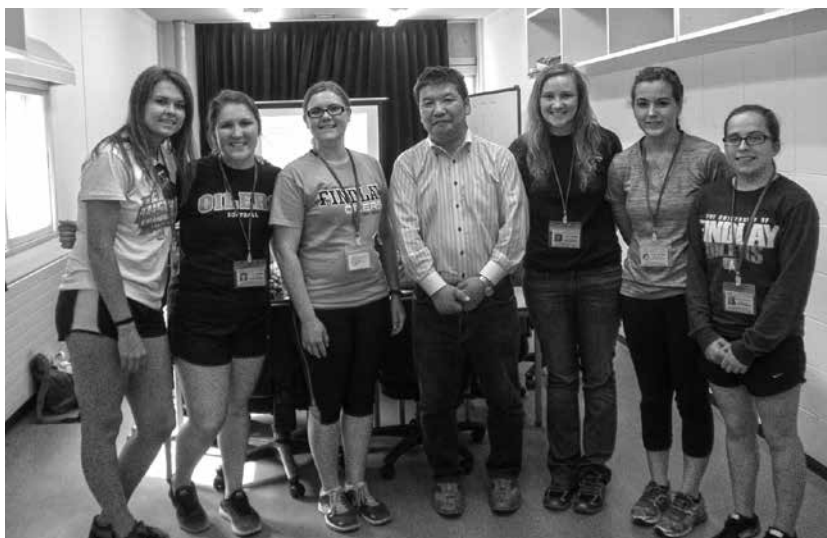
最近の日本の大学の努力目標の一つに国際化がありますが、看護学類でもまずは海外の動物看護系学科とのコラボを目指し米国のパデュー大学への研修生の派遣を2016年度から行っています。今年も3名の学生が7月に2週間の臨床研修を行い帰国しました。また、米国のフィンドレー大学との学術交流では動物医療センターの全面的な協力を頂きながら看護学類での種々の講義・実習を体験してもらっています。

今後多くの方々の協力を頂き国際交流を進めたいと思います。

ただし心配なこともあります。獣医保健看護学類では卒業論文は選択科目ですが、その履修者が年々減少傾向にあります。履修者数（卒業生数）と卒業論文数の推移は、1期生が48名（58名）で40論文、2期生が47名（53名）で33論文でしたが、3期生では37名（56名）で29論文となっています。今後の推移を見守るとともに、卒業研究の意義やその有用性についても学生に示していくことが必要と考えています。

ざっと看護学類の2017年度の現状について紹介してまいりましたが、満足する点も悩みもあるという点では組織として正常であると考えます。今後良いところは伸ばし、足りないところは改善していきたいと思います。

しかしながら我々の努力のみではできないことも多々あります。同窓会校友会の皆さまには今後ますますのサポートをお願いします。



フィンドレー大学学生研修（動物薬理学）



2017年3月学類3期生卒業式記念写真

同窓会校友会会員の皆様

酪農学園大学 学長 竹花 一成

同窓会校友会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

酪農学園寄附行為に従い2016年8月に大学学長候補者への申請を行い、選考委員会より選定され、理事会の承認を得て、2017年4月1日付けで酪農学園大学学長（任期2020年3月31日まで）の辞令を頂きました。新たな気持ちで酪農学園大学の発展のために邁進致しますので、一層のご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

2015年9月から2017年3月まで学長として務めたことは、自分に足りないものは何かを把握できましたし、今後学長として進む上で大変有益になったと思っております。

今回、大学の教育研究運営の迅速な対応を図るために、学長のシンクタンクとして3名の副学長（野 英二氏：酪農学科11期、照井俊秀氏：前教育センター事務次長、石島 力氏：獣医学科13期）を配置致しました。①基盤教育②教学組織③渉外、この3点をそれぞれの中心的な仕事として伝え進めております。当然ながら同窓会並びに職域OB会として位置付けられている緑風会、酪小獣との一層の連携強化も進めてまいります。

私の役目は、本学の学生教育の方向性を考え、教職員と共に実行していくことです。少子化問題、厳しい社会情勢などをどの様に乗り越え、いかに特色ある大学にしていけるかを引き続き考えてまいります。合言葉は「原点回帰」と「技術より技能」そして「おらが町の大学」です。

校友会は酪農学園同窓会の活動の中で中心的な役割を担っており、同窓会の発展のため関係者との連携強化を決して止めることなく進めて頂きたいと思っております。

現在、多くの支部同窓会が若い会員の興味を引くことが難しい状況にあると言われ問題となっています。まず得られるものがなければ参加しないのではなく、同じ場所で学び過ごしたことを思い出し「心が癒される時間」を共有することが重要であると考えます。会員の皆様にはこのことを理解し実行して頂ければと願っております。

今後、何らかの工夫を考えることも必要な時期に来て

いると思います。同窓会は営利を求める会ではなく親睦団体です。酪農学園の発展を共に願い支える組織であって頂きたいと願っております。

酪農学園の「建学の理念」を継承する卒業生を輩出することが大学の責務です。今後とも学園運営のため、ご支援・ご協力を頂きましたら幸いにございます。会員皆様の益々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



第1回オープンキャンパスの学生スタッフと一緒に撮影

2017年度第26回ホームカミングデー開催報告

9月9日（土）朝方までの小雨も上がりさわやかな秋晴れのもと第26回ホームカミングデーが同窓生会館前、黒澤記念講堂で開催されました。

11時からの野外バーベキューランチでは同窓生や在学生、本学関係者など道内・外から150名を超える方々にご参加いただきました。食材は前回同様本学フィールド教育研究センター肉畜生産ステーションで肥育の牛肉（日本短角種）や本学製造の牛乳やアイスクリーム、トンデンファームウイナー（本学OB経営）、野村武同窓会顧問差し入れのトウモロコシ、本学学生の育てたメロン（教職センター西田丈夫教授より）と盛沢山でした。

バーベキューランチは（公財）酪農学園後援会永田享常務理事の進行で開会し、小山久一同窓会長、竹花一成学長から歓迎の挨拶を頂きました。

会場ではブルーグラス研究所（学生サークル）による軽快で心地よい演奏（カントリー＆ウエスタン）が流れる中、貴農同志会村山昭二会長から挨拶、副学長の野英二氏、石島力氏、照井俊秀氏から紹介等を頂きました。その後、関東甲信越地区同窓会からご参加の東京支部安藤武男事務局長、田中可子副支部長の紹介、スピーチ。学園を代表して近雅宣常務理事から挨拶を頂きました。

和気あいあいと楽しんだバーベキューランチの最後には毎年恒例となりました仙北富志和学園長からの「また来年お会いしましょう！」と元気な挨拶で昼食会の閉会となりました。



小山久一同窓会長



ブルーグラス研究所



仙北富志和学園長



野外バーベキューランチの様子

会場を黒澤記念講堂に移し13時30分よりホームカミングデー記念礼拝（物故者追悼）、記念講演が開催され約80人にご参加いただきました。

記念礼拝の司式はとわの森三愛高等学校榮忍校長により行われ、讚美歌合唱のあと聖書「ヨハネの手紙14章7～12節」を朗読、物故者追悼が行われ祈りを捧げました。司会の同窓会校友会加藤清雄事務局長が1年間でご逝去された同窓生、旧職員のご芳名を一人一人読み上げられました。

榮校長は「支え合う関りへの招き」をテーマに奨励を行い、礼拝の最後には参加者全員で酪農讃歌を合唱し式を閉じました。

続いて記念講演に先立ち（学）酪農学園谷山弘行理事長より学園を取り巻く状況報告と講師への謝意の挨拶が述べられました。

記念講演の講師には日本獣医師会顧問北村直人氏（本学獣医学科4期）をお迎えしました。テーマは「大切なのは記録と検証」－酪農学園での獣医療倫理と動物福祉－でユーモアを交えながら獣医療と動物福祉についてわかりやすく、時の話題などにもふれながら、大変興味深い講演内容でした。

今回新たな企画として野外バーベキューランチ後と記念講演後の2回、加藤事務局長の案内で行われました「中央館屋上からの展望」屋上見学会にもたくさんの同窓生にご参加いただき大変好評を頂きました。

2018年度第27回ホームカミングデーは7月7日（土）白樺祭同日に開催予定。

記念礼拝・記念講演の時間・内容など決まり次第、ホームページにて掲載いたします。

■酪農学園同窓会 <http://rakuno.org>

■大学同窓会校友会 <http://kouyukai.rakuno.org>



記念礼拝の様子



谷山弘行理事長



講師の北村直人氏



記念講演の様子

酪農学園大学合同周年記念同期会報告

本年度より同窓会校友会事業の一環といたしまして周年記念同期会および退職記念祝賀会の参加者1名に対し1,000円の助成を行うことといたしました。

周年記念同期会は獣医学科では恒例となり独自に企画・開催されているため、本年度はホームカミングデー同日に獣医学科以外の同窓生で卒業10、20、30、40、50周年を迎える皆様にご案内し開催いたしました。

新さっぽろアーキシティホテルを会場に約40名の同窓生・恩師が集まり、道内をはじめ遠くは熊本、広島、兵庫、大阪、愛知、新潟、青森から参加していただきました。

はじめに同窓会校友会加藤清雄事務局長より開会のことば、小山久一同窓会長よりあいさつをいただきました。

次に参加者最年長の菅沼英二酪農学園大学名誉教授に

食前の祈りをいただきました。ご歓談の後、野英二酪農学園大学副学長に学園の近況や昔話などをお話しいただきました。参加者全員に近況と思い出話をしていただき、とても懐かしく、和やかで楽しいひとときを過ごしていただきました。これを機会に独自に同期会を企画しようという声も聞かれました。

閉会のことばを太田一男酪農学園大学名誉教授にいただき最後に参加者全員で輪になり酪農讃歌を合唱し、その後記念に集合写真を撮影いたしました。

今回の企画を通して同窓生の絆がより一層深まり、同窓会の発展、そして酪農学園の発展につながることを願っています。



次回の周年記念同期会は2018年7月7日（土）
白樺祭、ホームカミングデー同日に開催予定

次年度ご案内する学科・期は以下の通りです。皆様には詳細を書面にて郵送予定です。

（酪農学科5期、15期、25期、35期、45期）

（農業経済学科4期、14期、24期、34期、44期）

（食品科学科7期、17期）（食品流通学科11期）

（経営環境学科7期）（地域環境学科7期）

退職記念祝賀会 & 獣医周年記念同期会報告

■ 2017年8月19日（土）午後6時より京王プラザホテル札幌で石下真人教授の退職記念祝賀会が食品科学科、食と健康学類同窓生を中心に関係者50名により開催されました。代表幹事は上村篤正氏、幹事は泉真智氏、加地貴英・千穂夫妻、手塚圭氏、山保宏貴氏、池田雄軌氏。

泉氏の司会により会が進行し退職される石下教授の特別講義が行われました。



■ 2017年9月17日（日）午後6時よりホテルエミシア札幌で獣医学科29期生20周年記念同窓会を開催。台風の影響で急きょ参加できなくなった方もいましたが64名が集まりました。幹事会で作成した入学・卒業時の写真（スライドショー）を上映。代表幹事は小池政紀氏、幹事に宮庄拓氏、久万田剛氏。



■ 2017年10月14日（土）獣医学科39期生10周年記念同窓会、午後1時より黒澤記念講堂にて礼拝を行いその後、4時から京王プラザホテル札幌で加藤清雄先生、中出哲也先生、谷山弘行先生、山下和人先生、廉澤剛先生にもご参加いただき65名での開催。代表幹事は中村晃三氏、幹事に小林進太郎氏、長峯栄路氏。

最後に全員で輪になり酪農讃歌を合唱し閉会しました。



■ 2017年10月21日（土）獣医学科18期生30周年記念同期会を同窓生等50名で開催。午後2時より黒澤記念講堂にて礼拝と奨励を行い山下和人学類長、南繁獣医学科同窓会会長に挨拶を頂きました。恩師の紹介終了後、ホテル札幌ガーデンパレスに会場を移し懇親会を行いました。代表幹事に川本哲氏、幹事は石岡菜穂子氏、柴田啓子氏。



山舗直子教授 退職記念祝賀会開催予定

開催日 2018年2月3日（土）17時～
場 所 ホテル札幌ガーデンパレス

問合せ 酪農学園大学附属動物医療センター
事務課 高山基樹
takayama@rakuno.ac.jp

学生応援企画メニュー実施

2017年度同窓会校友会の事業の一つとして第3回学生(準会員)応援企画メニューが行われました。

酪農学園大学生協に協力をいただき、6月中4回にわたり丼物に健土健民牛乳を付けたメニューを200円で提供させていただきました。かき揚げ天丼、キーマカレーメンチカツ丼、スパイシーミートハンバーグ丼、ハヤシソースチキンカツ丼の4回。

午前10時から午後2時の間に各日250食限定、4日間で1,000食をご用意させていただきましたが全てお昼までには完売する盛況ぶりでした。今年で3回目ということもあり徐々に浸透しているようで「全日食べに来ました!」という学生も見られました。男女ほぼ同割合で食べられているようで大変好評のうちに無事終了いたしました。

次年度も学生に喜ばれるメニューを企画し実施していきたいと思います。



2017年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月19日(金)新さっぽろアーケンティホテルにて2017年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会が開催された。理事6名、代議員10名が出席(委任状13名)。監事2名、事務局2名出席。議長は小山久一会長が務めた。冒頭小山議長のあいさつのあと議事が進められた。議事録署名人は佐藤元昭理事と野英二代議員が選出された。議案第1号:2016年度事業報告並びに収支決算、監査結果について報告され了承された。第2号:2017年度事業計画(案)並びに収支予算(案)が提示され了承された。第3号新規事業として周年記念同期会・退職記念祝賀会に対する助成金制度の制定・規程が提案され了承された。その他次年度獣医保健看護学類卒業生が200名を越す見込みから新たに2名の代議員を選出することが提案され了承された。

物故者 2016年4月から2017年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 安達宗之介(酪農・3期) | 大内 正三(酪農・6期) |
| 水沼 猛(酪農・9期) | 長坂 芳人(酪農・13期) |
| 尾藤 誠記(酪農・21期) | 大澤 武史(酪農・28期) |
| 千徳あす香(酪農・37期) | 葛原 孝宏(農経・3期) |
| 島 正治(農経・7期) | 岡本 義光(農経・8期) |
| 匂坂 昭(獣医・2期) | 河野 健(獣医・4期) |
| 金井 孝夫(獣医・9期) | 高林 晶子(獣医・10期) |
| 河野 勝彦(獣医・12期) | 池端 和広(獣医・14期) |
| 江刺家央子(獣医・19期) | 佐藤真佐岐(獣医・21期) |
| 三浦 善裕(獣医・26期) | 丹羽 健二(獣医・27期) |

敬称省略

会計報告

2016年度決算および2017年度予算について下記のとおり承された

収 入 (単位:円)

項 目	2017年度予算	2016年度決算	2016年度予算	備 考
前年度繰越金	12,070,013	10,286,958	10,286,958	
新同窓会費	23,820,000	25,620,000	25,440,000	30,000円×854名
同 窓 会 費	1,860,000	11,250,000	11,625,000	15,000円×750名
預 金 利 息	5,000	4,529	5,000	
助 成 金	10,000	10,000	10,000	同窓会より
ホームカミングデー分担金	200,000	160,000	200,000	学園・関係団体より
雑 収 入	100,000	0	100,000	
合 計	38,065,013	47,331,487	47,666,958	

支 出

項 目	2017年度予算	2016年度決算	2016年度予算	備 考
校友会事業費	13,600,000	7,907,766	9,850,000	
入学式関係費	1,600,000	1,360,359	1,600,000	バスケース、案内文書
卒業式関係費	8,000,000	4,822,376	6,400,000	パーティー会費補助他
在学生関係費	1,000,000	482,140	500,000	白樺祭助成金他
同窓生関係費	300,000	292,000	300,000	記念品作成
ホームカミングデー関係費	300,000	218,717	300,000	食品・備品、謝礼金他
会報関係費	700,000	570,110	600,000	印刷代
周年記念同期会 退職記念祝賀会助成金	1,700,000	0	0	ハガキ、印刷代、助成金他
シリーズ小冊子	0	162,064	150,000	2016年度終了
同窓会支部活動助成費	7,940,000	5,983,750	5,983,750	通信・活動費助成他
同窓会費返還金	0	1,130,000	0	退学者46名分(2万5千円44人、1万5千円2人)
校友会運営費	3,620,200	3,279,958	3,590,200	
会 議 費	150,000	82,180	200,000	理事・代議員会他
同窓会負担金	640,200	640,200	640,200	同窓会
人 件 費	2,300,000	2,167,136	2,200,000	事務局長手当て含む
通 信 費	80,000	57,655	50,000	電話料・郵送料
旅費交通費	80,000	44,920	80,000	理事・代議員会他
慶 弔 費	20,000	0	20,000	弔電
事務用品費	250,000	185,588	300,000	コピー、トナー代他
消 耗 品 費	50,000	53,355	50,000	フロアマットリース代他
雑 費	50,000	48,924	50,000	振込手数料
雑支出	0	16,960,000	16,960,000	基金へ(卒業記念事業費)
小 計 (a)	25,160,200	35,261,474	36,383,950	
予備費	12,904,813	0	11,283,008	
当期余剰金	0	12,070,013	0	
小 計 (b)	12,904,813	12,070,013	11,283,008	
合 計 (a+b)	38,065,013	47,331,487	47,666,958	

(単位:円)

基 金	金 額
卒業記念事業費(準会員積立金)	48,960,000
周年事業費	17,342,761